

## 最古の超新星記録

作花一志

望遠鏡使用前に裸眼で観測された超新星の記録は7回しかありません。そのうちの3件は『明月記』に載っていて平安時代の陰陽師の観測によるものです。

年	出現星座	最大等級	型	距離	備考
185	ケンタウルス	-8等		8200 光年	RCW86
393	さそり	-1		3000	G347.3-0.5
1006	おおかみ	-9	I	7000	史上最輝星
1054	おうし	-4	II	6500	かに星雲 (M1)
1181	カシオペア	0	II	10000	クォーク星?
1572	カシオ ペア	-4	I	13000	ティコ超新星
1604	へびつかい	-2.5	I	13000	ケプラー超新星

最古の記録は『後漢書天文志』に記載され、靈帝中平二年十月癸亥 (=185 年 12 月 7 日) に出現したそうです。この超新星残骸 RCW86 は  $\alpha$  Cen のそばにあり、現在黄河のほとりからは見えませんが、1800 年前には長安での南中高度は約 2 度となります。南中時刻は 8 時ころ、当然太陽は昇っていて、その中で見えたとすれば非常に明るかったはず、SN1006 と並ぶ史上最輝星ということになります。この客星は 1 年半も見えていたそうです。翌年になれば深夜、地平線あたりでキラキラ輝いていたのが眺められたでしょう。

この星を見たのは誰か? 時は三国志物語の幕開けのころです。若き日の曹操・劉備はすでに活動を始めています。諸葛孔明や孫権はまだ幼子ですが、南方にいたようなので目に留まる機会があったでしょう。アレキサンドリアではプトレマイオスの後継者たちが眺めていたかも知れませんが、記録はありません。わが国では倭国大乱の終息の時代。ヒミコの共立即位のきっかけとなった天変とは、ひょっとしたら皆既日食ではなくこの超新星の出現かもしれません。



超新星出現から 2 ヶ月後の建業 (南京) から見た深夜の南天です。超新星の北には  $\alpha$  Cen、その西には  $\beta$  Cen、さらに南十字星が見えます。また東にはさそり座が、その上には火星が明るく見えています。

ステラリウム + Gimp2.6 にて作成